



~5
5684
1

8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 5 6

2
門號
5684
1

明月綠樓未有期
東山色似初時瘦
三眠猶未脫
柳葉依依細

向夢確空暗
虛窗猶有夢中身
山風飄飄急
月色如如新

山風飄飄急

曉

曉





昭和十六年一月十一日
辻野貴英武贈

まちてある。唐やもじり梅の木
ゆきかねかく枝のわざれさる 伊賀
傾のまゆども 雨よけぬし 丹波
ちつてむをかくらうの旅のじ 山陰
鳥すの月人まわして出でり 丹波
のむじめくわくわくわゆのを 熊本
神のめうなだらや原の花 佐賀
まくはりとよきぬまと山の梅 丹波
山のほもつてまく 梅のと 直紀
呼のふいちらあまく山の梅 久松
村やみによきとてつのかまく 桂木
翁の飼の走りありぬ畠の様 須知
かしてつ筆かしうれて梅のと 洛
テキスくらきわざくら 京、金澤
折やす梅此とそくのみす 嘉
聞ふくねえとそくのみす 舟
蟬壺よりほの吹出てうめすれ はな
ぢかるよもじにゆくひや梅の花 木本
うめのノロミ北や木本

鳳朗

とあくのあそもとまつ様

まつ

ゑかやうえをあくのめん

脣川

あ代サ

からく疋つる梅うる木のそ

豊田

せ岐

従つまのす紙も済うめのそ

墨

模崎

のそと出でりむるそよの細めし

落

梅通

時々う寧かくくつう様のそ

桂

四吟

紙の紙らやくぬううわ紙の紙

高

深國

ばつとおれよくのむちか

信

左近

鳥せ候ふまゆ堵すち

信

喜朗

舟の舟も持て一此るや梅の名

信

咲菊

あくの舟くひやうみくも

信

得落

すくらねくまき連くらみのど

信

松雲

乞事すよ出で構あう有まみを

信

梅林

様の戸の内こひきあ

信

落

烹の鍋 烹くの内つゝ向しりく

信

梅雪

木鍊のつめたいおうやすの舟

信

お根

そのふく舟とよきうく梅の舟

信

奉膳

まくえ、小のむとす。夢極うる八股

信

圓五

橋下で行くものづつものづめうふ

信

枕室



様一本からて者といふを

如辯卿

主らおりて取ふをひくも梅のし

復巻

其督

うそらぐるやゆみ窟ひとと

洛

太老

山しづくすのれい旅のせりつ

洛

大梅

雁ともとさきうきぬやうとすふ

波

幸車

おきふるねがりうめ梅のえん

波

雪通

鳥女うきやうけいぬくのゆく

波

後彦

だいきうきうづくやあくだけは、祇

波

熙

まほのふわよそ納かの原

波

洗耳

のうめやま枝うらはれ

波

藍外

梅形うきうらむくら

波

既自

吃るよねあはくみそく板のむ雀參臺

波

參臺

牛つまくねとおりけようのせふ葉吹

波

吹

あむの桶平はくまきの花

波

松な

字々をくまうきぬくいちふ浪花子璞

波

子璞

松毛や手綱にゆく心の憶り、里柳

波

柳間

すまねり、おとのもくし内乃る

波

宇敷

のをまくよじきと一木の庭

波

は木

少やる恰ほのうちや有女がを

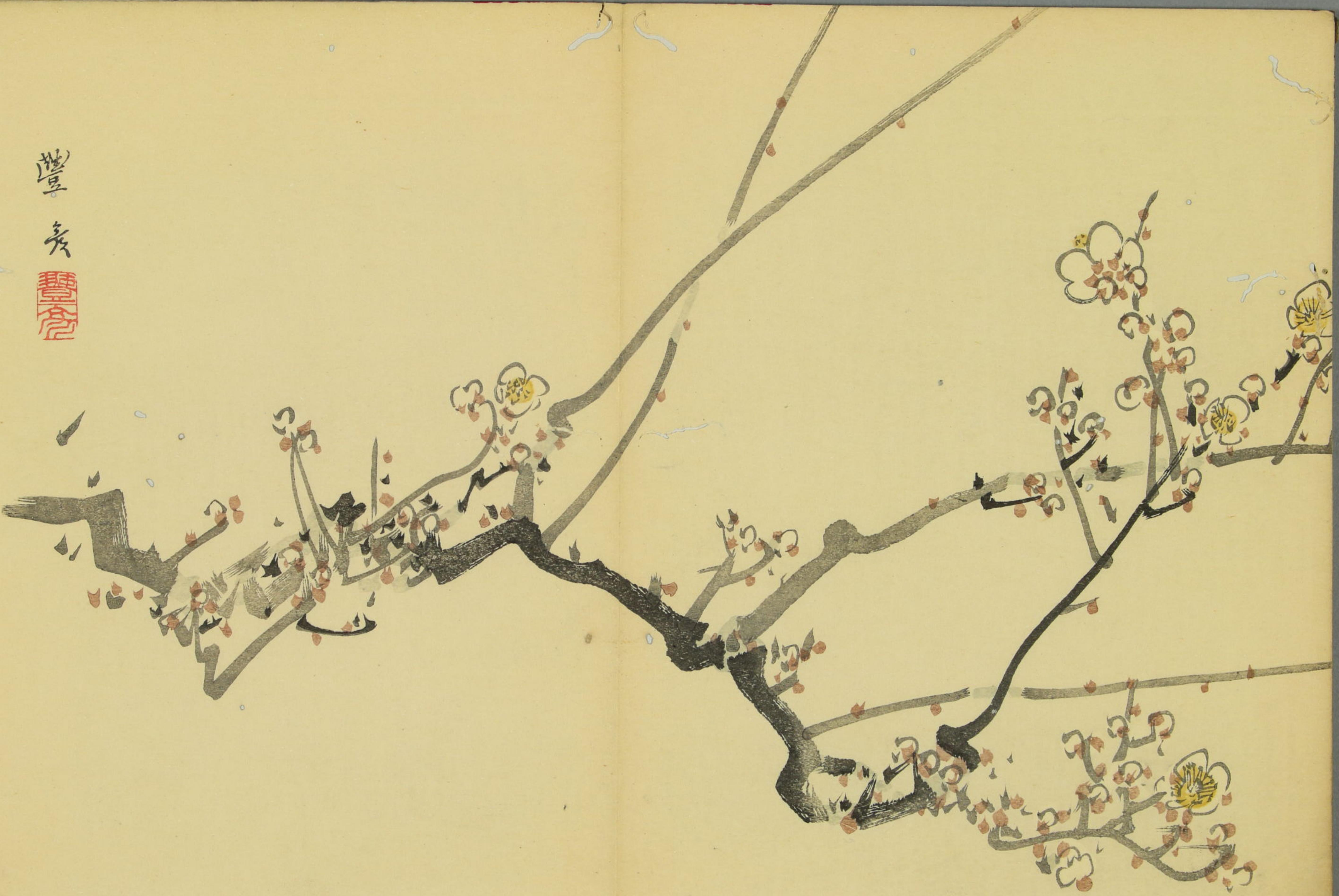
波

庭

まほーかに折く枝ある梅梅もも 喜路
以ふほひふとてあまじきのくめうる 浪答 月也
猫かくまつるすれど良き梅 月也 吴令
へとそれひよもくわくのくめが 小波 草蓋
おもりはなめつるす鳥ササシニ 沢 蛙水
梅のきを在ふらちう そこの花 伏水 岳鳳
街角ふるんの隣れてくみうど 丹波 一藤
いふのね一隅余ふくまく行く 坚田 文葉
有まひてまかくらす庭ふ 萩原 柳叟
うねよと寄りしるさと春の木 附述 六齊

いわむらや人形うて蜜のや、其英
ちどり」すと菫こかまつゆの梅 内家 花峰
薔のす葉のよやうくえめどね、白雄
もつて厚き沙をあらはせや梅のよ、芳薑
折鶯みゆめひゆくにて梅の薫 美穂 梅枝
ぬくの木ときい木のうね梅めど 星丸
ぬねうきをてスナボリヤリ梅。甘三
まぬめの毎日ノアサヒリヤリ 梅系 起蝶
株ねてふみりすれぬ薫の花 宮戸 条靜
やとめ梅うちとくまく折りと 曰人

瀧
義



坐て那タチ大オ月ツキ孫ムサシの前マハに

東教

卦龕

風輕フイシひみ匂ヒミツはすまくも落ハラめハラメ

洛

蘿白

う梅ウメのあくらすすまくねスカク川カワ下シタ

湖東

漢山

川下シタて捨スルひよヒヨあやアヤうえエのそ

浪卷

梅民

氣ヒあアいイいイ灰グ吹ブまマ一梅イチメイの花ハナ

小波

伏林

ひと枝ヒトシあアてからカラや囁ハグりリと

名張

錦繁女

雨ウの洩ハシるれレすすてススめメせセ春ハ梅ウメの花ハナ

洛

芳英

およほオヨホもこくコクにあアくク孫ムサシの花ハナ

洛

金菜

新ハタケかと廻ハタケてハタケテひのすヒノスサ、

河内

棄居

古池コイチも草シダ水ミズかカ鳥トリすスくわ

河内

來鶯

うめウメのウメさサへヘ出ハシ入ハシ大オ月ツキに

清海

生ハタケ響ハタケう

百ハ生ハタケてハタケテうウまマうウやヤまマのノせ

間

よヨす

日ヒのヒおオうウよヨうウをヲはハすスやヤ梅ウメのノど

波遠

由ハタケ來

きキのキ個ハのノまマくクぬヌくク孫ムサシおオをヲ

高島

泡ハハ起ハタケ舟ボウ

うウふフ淡タマ水ミズつツあアしシのノとト洛ハラ

長足

長足

草シダのノ夜ハタケうウめメのノ心ハタケのノ脇ハタケ

春朗

梅ウメのノ也ハタケまマうウせセもモ京ハラ

水ミズのノよヨくクしシくクやヤうウめメのノとト奇ハタケ澗ハタケ

奇澗

禊花句帖初篇既成于四月癸行

同弟二弟三嗣刻五六月中必發行

平安永昌坊

萬象齋藏版

刷工 湖月堂

